



CHARTERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S

2016年8月

札幌クラブ

THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
T.064-0811
011(561)5217

キックオフ・YMCAサービス・SF・RBM (Roll Back Malaria)

— 主 題 —

国際会長
アジア会長
東日本区理事
北海道部部长
札幌クラブ会長

「Our future Begins Today」
「Respect Y's Movement」
「明日に向かって 今日働こう」
「視点を変えて見てみよう」
「親しくそして語り合う例会を」

Joan Wilson (カナダ)
Tung Ming Hsiao (台湾)
利根川 恵子 (川越)
山本 雅之 (十勝)
宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員
会 長 宮崎 善昭
書 記 中田 千鶴
会 計 秋葉 聡志
直前会長 宮崎 善昭

今月の聖句

兄弟としていつも愛し合いなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。
ヘブライ人への手紙 第13章 1~2節 (中田千鶴選)

巻頭言

はるかな昔 遠い国

札幌クラブブリテン担当 中田 靖泰



私がアメリカを最初に訪れたのは1960年でした。アメリカ政府のフルブライト奨学金を得て、東海岸のロードアイランド州の名門ブラウン大学に留学することになりました。横浜のメリケン波止場からブラジルに行く移民船アルゼンチナ丸に乗りました。

2月前に結婚した千鶴も一緒に行くはずでしたが、外貨制限で駄

目でした。1ドル360円の時代でした。アルゼンチナ丸は戦前は北太平洋航路の豪華船として名を馳せました。戦時中は海軍に徴用されて、空母「海鷹」として活躍しました。私が乗った頃のアルゼンチナ丸は南米への移民船でした。1,000名を超す移民の方々が、テープを握って、見送りの人々とおそらく再び見ることのないであろう母国に別れを告げる光景は涙なしには見れない光景でした。移民の方々が乗る船倉には驚きました。体育館のような大きな空間に2段ベットならぬ4段ベットか5段ベットがぎっしりと組まれています。南米までの長旅はさぞかし辛いものだったと思います。それでも移民の方々は希望に満ちて目が輝いていました。毎日、これからの母国語になるはずのポルトガル語を一生懸命に練習していました。この方々が、後に「移民」ではなく実は「棄眠」だったと知って、船の中で仲良くなった子供たちはどうしているだろうと胸が痛んだものでした。それに引き換え、私たちフルブライト留学生10名の1等船室での生活は快適そのものでした。人生であれほど贅沢な生活をしたことはありません。毎日、3食、船長、機関長などとボーイにかしずかされて食事をしました。食

一が印刷されて配られました。南へ下ってハワイ航路なら静かな航海になるそうですが、移民船なので最短の直線のアリューシャン寄りの北大平洋を突っ切っていました。船長は夏で穏やかだと言っていました。どうして私たちには地獄でした。

4週間かけて遂にサンフランシスコに到着です。

今は、日本からアメリカへは飛行機で10時間です。でも、勝海舟が咸臨丸で渡った時は6週間かかりましたから文句は言えません。明け方、登る朝日に向かってゴールデンゲイトブリッジをくぐって行ったときは皆が涙を流していました。さらに南下して、ロスアンゼルスで上陸しました。町に入り最初に驚いたのは道の両側に車が隙間なく駐車していることでした。(札幌では三越の前に駐車できました。) もちろん日本車は一台もありませんでした。それから2泊3日、セントラル・パシフィック鉄道、ユニオン・パシフィックを乗り継ぎ、ニューヨークへ向かいます。ロスからニューヨーク、今なら飛行機で5時間です。鉄道を使うなんてよほどの暇人か、物好きか、金持ちだけです。大陸横断鉄道に乗って本当に幸運でした。ロス郊外に林立する油井が石油をくみ上げていました。ロッキー山脈をあえぎあえぎ上り、大平原に陽が上り、また陽が沈み、1日中玉蜀黍畑の中、アメリカの途方もない大きさをいやというほど実感できましたから。 ページ数も尽きました。「はるかな昔 遠い国」第1篇を終わらせて頂きます。



2016年7月例会

在籍会員 11名

例会出席 8名

メネット 0名

メーキアアップ 0名

出席報告

ゲスト 1名

ビジター 0名

出席者合計 8名

出席率 73%

札幌ワイズメンズクラブ 2016年8月例会

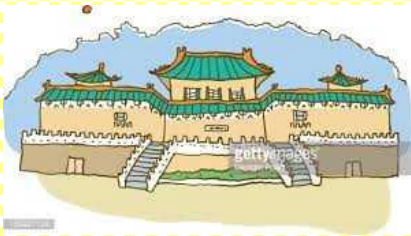
日時：2016年8月17日（水）18:30～20:30
会場：クラッセホテル札幌 2F 会議室
札幌市中央区南1条西7丁目1-2
Tel. 011-281-3800

例会会費：1,200円

プログラム

- 18:30 各自食事
- 19:00 司会 秋葉 聡志
- ① 開会点鐘 札幌クラブ会長 宮崎 善昭
- ② ワイズソング、ワイズの信条 全員
- ③ 聖句 中田 千鶴
- ④ 会長あいさつ 会長 宮崎 善昭
- ⑤ 誕生日 8月27日 安田 文子 会員
- 結婚記念日 なし
- ⑦ 卓話

「台北国際会議報告」



宮崎善昭会長
柴田伸俊会員

- ⑧ 諸報告
- ⑨ YMCA 報告 YMCA 担当主事 佐藤 雅一
- ⑩ 今月の歌

「栄冠は君に輝く！」



主題とスローガン

今年度の国際役員「主題」はご存知のことと思います。ブリテンの1ページに記載されています。「主題」を補強する「スローガン」もご紹介します。

▼国際会長 Joan Wilson (カナダ)

“Together We Can Do So Much More”

「手を取り合えばもっと多くのことができる」

▼アジア会長 Tung Ming Hsiao (台湾)

“Solidarity Y's Men Family for Better World”

「より良い世界のために Y's Family の絆を強めよう」

▼東日本区理事 利根川 恵子 (川越)

“Together Let's Roll Now!”

「手を取り合って、いま、行動！」

札幌ワイズメンズクラブ7月例会

日時：2016年7月19日（火）16:30～21:00
場所：札幌クラッセホテル 2F 会議室
出席者：秋葉、佐藤、柴田、中田千鶴、中田靖泰、伏木、宮崎、安田、柳沼 9名

新年度最初の例会。宮崎会長が「楽しい充実した語り合う例会を」という主題を語り、会員の協力を求めました。

卓話では北海道YMCAの野外活動スタッフの木田貴浩氏が日本に近代的なキャンプを初めて導入した大阪YMCAの働き、その理念を解説し、さらに現在北海道YMCAが展開している多様なキャンプをパワーポイントを使い詳しく楽しく語ってくれました。北海道Yのキャンプと言えばチミケップしか知らなかった会員たちは黒松内や日高、さらには奥尻島にまでYのキャンプが広がっているのを初めて知って驚き、かつ喜びました。

「今月の歌」では「みかんの花咲く丘」を歌いました。ここでも、この歌がGHQ（アメリカ進駐軍司令部）の検閲を受けなければならなかったこと、ロケ地に向かう汽車の中で数時間で作曲されたこと、「母さんと」という歌詞が当時多くいた戦災孤児たちを悲しませないように「姉さんと」に改められたこと、などを知って驚き、また今昔の感に打たれました。

例会終了後、会場を1階の「ひだまり庭」に移して佐藤雅一担当主事の「主事認証」の祝賀会を開きました。主事論文は「YMCAの国際プログラム」だったそうです。長年のベトナムワークの経験を活かしたい論文ができたと思います。

札幌クラブ 7月事務会

日時：2016年7月25日（月）19:00～20:30
場所：北海道YMCA総主事室
出席者：秋葉、佐藤、柴田、中田千鶴、伏木、宮崎、6名

議題：

- ① 8月例会卓話 YMCAさんかく
- ② 2016～2017 巻頭言、聖句担当者決定
- ③ 卓話者を各自推薦
- ④ DBC京都パレスクラブとのファンド事業を目的に研究・推進することに決定した。
担当委員：宮崎会長、柴田Yサ
- ⑤ 8月11日（木）、北海道YMCA黒松内キャンプ場を激励訪問することに決定。
- ⑥ 9:00 YMCAに集合。会員の車数台に分乗。
- ⑦ 台北国際大会出席者は宮崎会長夫妻、柴田3名。

何故この聖句を？ 中田 千鶴

ここにある「兄弟」は勿論肉親の兄弟ではありません。世界中の人は皆「兄弟姉妹」なのです。「知らずに天使をもてなす」こともあるのです。マタイ 25章 40節の「最も小さき者の一人にしたのは」と同じ心だと思います。この聖句を読んで、今世界を悩ましているシリアからの「避難民」も実は「兄弟姉妹」で「旅人」であることに気づきましょう。

6月卓話 北海道YMCAキャンププログラム 北海道YMCA野外スタフ 木田 貴寛

YMCAキャンプの歴史

1920年、六甲山麓で最初のキャンプが行われました。大阪YMCA少年たちのために試みた松林の中の2週間の簡易天幕生活キャンプで、これが日本における最初のキャンプとなります。この活動は瞬く間に全国に広がっていき、現在では年間を通しておよそ22,000人の子供たちが全国各地でYMCAキャンプを経験しています。YMCAがこれまで大切にしてきたキャンプには、いつの時代においても可能性と喜びがあり、その経験を通じて大切にしてきたキャンプには、いつの時代においても可能性と喜びがあり、その経験を通して多くの人が育ち、変えられてきました。日本YMCA同盟では2020年のキャンプ100周年にむけて、100のYMCAストーリーを集めて、HPなどに掲載しています。

YMCAキャンプの7つの目的

1954年、名古屋YMCAで日本YMCAキャンプイニキアター協議会が行われ、キャンプの目的7項目が決定しました。

- ① 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける。
- ② 良い習慣を育て、実践する。
- ③ 健康のための知識を得て、自分の身体を守る方法を学ぶ。
- ④ 生活を豊かにする技術を学び、想像力を育む。
- ⑤ 良き友人を作る方法を学び、互いの存在と生命を尊重する心を育む。
- ⑥ 民主的なグループ経験から、社会にかかわる責任感を培う。
- ⑦ 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う。

これらは日本YMCAキャンプスタンダードに記載されており、5年おきに改訂されています。

運営組織・グループ指導体制

◆各キャンプコースディレクターの指導のもと、キャンプリーダーがそれぞれに役割を分担し(カウンセラー・リーダー、プログラム・リーダー、キッチン・リーダーなど)、一つひとつのキャンプを運営していきます。

◆学年や年齢構成に配慮し、男女別に8名程度のグループを編成し、1グループに1名のカウンセラー・リーダーがつかいます。グループの指導者は、24時間体制でキャンパーと寝食を共にします。また、各キャンパーには、キャンプ中に様々な役割が与えられ、協力してひとつのキャンプを進めていきます。

右の左：
奥尻島のシンボル「なべつる岩」鍋のつるににている。
右の右
キャンプでは五右衛門風呂にも入ります。



上：神秘的湖チメケツ
中央がロープダイビングに使う栈橋。

右：チメケツのシンボルのメインホール



北海道YMCAのキャンプ

北海道YMCAが所有するチメケツ国際キャンプ場をはじめ、札幌で多くの子どもを集めている当別町にある道民の森神居尻地区キャンプ場、日高青少年自然の家、奥尻島、黒松内など、様々なキャンプ場でそれぞれの興味の応じた体験ができるように企画しています。

今年度も250名ほどの子どもたちがキャンプに参加し、YMCAスタッフ・ユースボランティアリーダーと共に活動を行っています。各キャンプごとにテーマ・ねらいを設定し、体験活動だけで終わらないようにプログラムや集団生活を通して様々な学びを得る貴重な経験をしています。

▼チメケツキャンプ

1964年開設以来50年、その間アメリカ、ロシア、台湾、韓国、香港、オーストラリアなど世界中多くのリーダー、キャンパーを育てた北海道YMCAが誇る国際キャンプ場です。原生林に囲まれた神秘の湖、豊かな動植物、多くの自然に囲まれた中で、カヌー、ボート、ロープダイビング、フィッシングなどの湖水を活用したプログラムやアーチェリー、キャンプファイアー、など、など普段は体験することのできない本格的なプログラムを体験できます。海外のリーダーと共に活動し、英語での日常会話を学ぶこともできます。



石狩郡当別町神居尻地区の様々な森を使って、自然や森の仕組みを楽しみながら学びます。道立の立派な施設を使ったキャンプですので、キャンプが初めての子供たちでも安心して参加できるキャンプです。「なかよしの森」、「チャレンジの森」、「ワイルドの森」、「クッキングの森」などいろんな森を探検することができます。

▼日高キャンプ 国立日高青少年自然の家



▼奥尻島アイランドキャンプ

奥尻島の広々とした海で泳ぎ、島で捕れる海産物の加工を体験するなど、北海道でなければ体験できないキャンプです。

▼黒松内ブナの森 化石キャンプ

黒松内が日本のブナ林の北限です。その貴重なブナ林と美しい添別川を中心にブナ林散策、川遊び、小魚釣り、化石とり、化石の標本作りなど黒松内でしか体験できない自然体験を満喫できるキャンプです。

YMCA ニュース 担当主事 佐藤 雅一

ブリテン巻頭言・聖句担当、支援行事予定表

1. ベトナムボランティアワー

8月3日7名のボランティアとスタッフの佐藤がベトナムに向けて出発します。昨年20周年を迎え評価と今後に報告生を確認し、引き続きベンチェ省で子供達のために教室を建設していきます。



現地では壁・窓枠・扉などのペンキ塗りを中心としたワークの他、ホームビジットも予定されており、8月10日には贈呈式を行います。

2. 海外からのボランティアリーダー

今年もチミケップ国際キャンプ場には、マイクさんの他に、台湾からのリーダー9名、アメリカからのリーダー2名、合計12名がボランティアリーダーとして活動しています。8月13日まで活動し、その後はほとんどの人が日本各地を観光してから帰るようです。

3. 将来構想委員会

8月16日、第1回の将来構想委員会が開催されます。将来構想委員会はYMCAの現状を把握検討し、将来計画を策定していく上での基礎を作っていく委員会で、札幌ワイズメンズクラブの伏木さんが委員として参加していきます。

4. バザー

今年のパザーは10月2日(日)に行われ、実行委員長には札幌ワイズメンズクラブの宮崎会長が就任します。即売コーナーを始め、ビンゴ大会・ゲームコーナー・イベントなどで使用する寄贈品を集めています。ご家庭で使わなくなっている物がありましたら、是非今年のパザーにご寄贈下さいますようお願い申し上げます。

《ご寄贈頂きたい物》

★商品券・ギフト券・洗剤・贈答品・家庭雑貨・タオル類・寝具類、等

★食料品・調味料・お米・砂糖・お菓子、等

★古本・CD・DVD・ゲームソフト

即売コーナーで販売します。残った分はブックオフに販売し、売上をバザーの収入とさせていただきます。

★社名入りや販売促進用の商品でも結構です。

*誠に勝手ながら、大型家具・古着・使用済みの食器等の他、バザーでは販売が難しいと思われる品物につきましてはご寄贈を辞退させていただく場合がございますので予めご了承下さい。

ご不明な場合はお問い合わせ下さい。*寄贈品は、9月5日以降CAの受付までお持ち下さい。

年	月	例会日	巻頭言	聖句	支援行事
2016年	7月	7月15日	中田千鶴	中田靖泰	チミケップワーク
	8月	8月16日	中田靖泰	柳沼慈子	キャンプ訪問
	9月	9月20日	柳沼慈子	伏木 康	全道サッカー
	10月	10月18日	安田文子	秋葉聡志	Yバザー
	11月	11月15日	伏木 康	柴田伸俊	らっこ水泳街頭募金
	12月	12月20日	川上由美子	佐藤雅一	YMXマス
2017年	1月	合同例会	秋葉聡志	安田文子	合同例会
	2月	2月21日	佐藤雅一	川上由美子	
	3月	3月21日	柴田伸俊	宮崎善昭	ユース VLF
	4月	4月18日	中田千鶴	伏木 康	第2回評議会
	5月	5月16日	中田靖泰	柳沼慈子	チャリティラン
	6月	6月20日	宮崎善昭	柳沼慈子	
実施日未定の支援事業			1. 時計台コンサート 2. チミケップワーク		

**北海道部第1回評議会・部会
十勝クラブ40周年記念例会**

評議会・部会

日時：2016年8月27日(土) 13:00～

会場：とまちプラザ (JR 帯広駅前)

12:30 受付開始

13:00 評議会開始 (2階)

15:00 北海道部部会 (3階)

特別講演

「ワイスへの思い

～ これまでとこれから ～

講師：盛田 恵三

第38代日本区理事 京都ウエストクラブ

記念写真撮影

懇親会

会場：ホテル日航ノースランド (JR 帯広駅前)

18:00 開会 ～ 20:00 閉会

登録費： 8,000円 (資料代・懇親会費)

ワイスの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。



写真左、上：
2015年バザーでの
札幌クラブの活躍。